

## 芦別ロータリークラブが市に非接触型検温器を寄贈



7月1日、道の駅スタープラザ芦別で、非接触型検温器の贈呈式が行われました。

これは、芦別ロータリークラブから「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対する支援事業」として、非接触型検温器1台を市に寄贈されたものです。

道内外から、年間38万人の人々が出入りする道の駅スタープラザ芦別に、新型コロナウイルス感染症予防対策として、正面玄関に設置されました。カメラの前に立つと瞬時に体温を測定し、規定範囲の体温を上回っていた場合、赤い文字と警報音で知らせるものです。

## 星槎国際高等学校芦別学習センターの2人が全国大会に出場

全国高等学校定時制通信制体育大会への出場を決めた星槎国際高等学校芦別学習センターの生徒2人が7月2日、市役所に荻原市長を表敬訪問しました。

出場を決めたのは、北海道予選大会女子バドミントンで優勝を収めた3年生の小川紗祈さんと同大会男子

卓球で5位入賞した3年生の三浦裕太さん。

2人は荻原市長に予選大会での成績の報告を行うと共に出場する全国大会での健闘を誓いました。これに対し荻原市長からは「けが無く元気に頑張ってきてください」とエールが送られました。



## 熱中症対策アドバイザー研修会を開催



7月5日、総合福祉センターで、今年1月に大塚製薬株式会社と市が締結した「健康増進に関する包括連携協定」に基づく初の連携事業として、熱中症対策アドバイザー研修会を開催し、市の保健師等の職員や消防職員、スポーツ推進員など22人が参加しました。

大塚製薬の熱中症対策アドバイザーより、コロナ禍ではマスク着用による熱中症や外出自粛による住居内での熱中症のリスクが高まることや、対策のポイントとして、食事・運動・睡眠の基本的な健康づくりの大切さ、喉の渇きを感じる前にこまめな水分補給を行うことの重要性などについて説明を受け、参加者が4グループに分かれて、各分野における課題や取組の改善点など意見交換を行い、対策の知識を深めました。

よる熱中症や外出自粛による住居内での熱中症のリスクが高まることや、対策のポイントとして、食事・運動・睡眠の基本的な健康づくりの大切さ、喉の渇きを感じる前にこまめな水分補給を行うことの重要性などについて説明を受け、参加者が4グループに分かれて、各分野における課題や取組の改善点など意見交換を行い、対策の知識を深めました。

## 「今しかできない青春を」。第71回芦校祭、2年ぶりに開催

7月9日、第71回芦別高校学校祭が同校体育館で行われました。

昨年の芦校祭は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止。本年度も感染拡大防止のため規模を縮小のうえ、一般公開は無しで2年ぶりの開催となりました。

テーマは「今しかできない青春を。」

～コロナパンチ(〇'-'')=\_-コ～。

クラス発表では、1年生から3年生の全6クラスが、この日のために作成した6分程の動画を上映。それぞれのテーマに沿って工夫をこらして編集されたダンス動画などが披露され、観賞している生徒や教員から大きな拍手が送られていました。



# 「星に願いを」のメンバーが道の駅の木製ベンチをボランティア塗装



7月11日、「星に願いを」のメンバーによる、道の駅スタープラザ芦別に設置している木製ベンチのボランティア塗装が行われました。

「星に願いを」は、市内に在住または勤務している青年で構成された団体で、雪まつりや農業まつり等のイベントへの参加や手伝いなどを行っています。

今回は、木製のテーブルとベンチの防腐塗装を行いました。

宮崎秀一代表は「ペンキ塗りは今回で3度目。気持ちよく休憩されている利用者を見て、やりがいのある活動だと感じています。これからも地元へ貢献できる活動を積極的に取り組んでいきたいと思います」と今後の意気込みを語っていました。

「星に願いを」では、新たな会員を募集中ですので、社会教育係 ☎22-3110までお問い合わせください。

## ★市長だより★ 49



市の健民センター「オートキャンプ場跡地を活用し、7月から豪華なキャンプを手ぶらで楽しめるグランピング施設「ザランタン芦別」を開業される株式会社ダイブ(本社東京)様が、業務提携する芦別温泉星遊館を含む健民センター指定管理者の芦別スターライトホテル社様、同社親会社の北海道ホテル&リゾート社様と市との四者により地域活性化に関する包括連携協定を6月29日に締結しました。

コロナ禍にあつて、キャンプへの需要が高まる中、公民連携してお互いのノウハウや資源をマッチングさせ、本市の地域振興、まちづくりの応援団として寄り添うだけけることは大変心強く、芦別の新しいモデル事業として、今後の進展に期待するところでです。

JR根室線(滝川・新得間)沿線の本市を含む7市町村で構成する「根室本線対策協議会」の総会(7月6日)で、これまで協議会としてJR北海道が「富良野・新得間」を、「廃止・バス転換」を求めていたことに、路線の維持存続のため協議に応じない対応をとってきておりましたが、JR北海道の経営環境や令和3年度からの国の支援策に赤線区

(輸送密度・1日利用者200人未満)の「富良野・新得間」の維持費用は計上しない方針が示されたことを受け、線区のあり方について協議を開始せざるを得ないことを確認し、特に関係する富良野市・南富良野町・占冠村・新得町の4市町村と道、JR北海道間で協議を進め、協議内容については適宜報告を受けることとなりましたことから、今後の推移を見守ってまいります。

日本ソーイング社北海道工場の閉鎖から間もなく1年を迎え、本市のふるさと納税の主力返礼品であったスーツ仕立券の受注が困難となり、大幅な減収を余儀なくされる事態に陥りましたが、これまでふるさと納税をスーツ仕立券に大きく依存して



北海道ホテル&リゾート、芦別スターライトホテル、株式会社ダイブとの、「地域活性化に関する包括連携協定」を締結しました。

いたことを教訓に、まさにピンチをチャンスに変え、攻めの姿勢をもって、改めて本市ならではの魅力ある特産品の研究や発掘に努め、徐々にでもV字回復できるように、全庁あげて取り組んでいるところです。

そのような中、先月16日に開かれた市行政改革推進委員会(学識経験者、公共的団体の代表者、公募による市民の皆さん18名で構成)では、ふるさと納税をテーマに市の歳入対策についてご議論いただく等、「ひと」「もの」「こと」など本市の地域資源に目を向けながら、ふるさと納税を、地域おこし、地方創生策の環境として「オール芦別」での取り組み、共に創りあげる「共創」のまちづくりにつなげたいと考えております。ぜひ市民の皆様、事業者の皆様からも、多くのご意見やアイデアをお寄せいただければ幸いです。

厳しい暑さが続いており、市民の皆様には熱中症等健康管理にご留意いただきますとともに、変異株の拡大が懸念されるコロナ禍からも、基本的な感染防止対策の徹底と、特に8月は夏休みやお盆など人や車の流れが増すことも予想されますので、外出の際には交通事故には絶対あわない、起こさないことの行動に一層意を用いていただくようお願いいたします。

芦別市長 荻原 貢